

三宅島

概況（平成18年10月）

噴煙活動は活発で、多量の火山ガス放出が続いています。

二酸化硫黄を含む多量の火山ガス放出は当分継続すると考えられますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

表 1 三宅島 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第 274 号 ～ 火山観測情報第 304 号	毎日 1 回 16 時 30 分 定期的に発表	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火山ガス・地震）及び上空の風の予想。



図 1 三宅島 噴煙の状況（10月18日09時40分頃、坪田（三宅島空港）遠望カメラによる）

この資料は気象庁のほか、独立行政法人防災科学技術研究所及び東京都のデータ等も利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。また、一部資料にある地図は、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 17 総複、第 650 号）

噴煙の状況

噴煙活動は依然として活発な状態が続いています。噴煙高度は火口縁上おおむね200～300mで推移しました(図1、図2 - 、表2)。

火山ガス(二酸化硫黄)放出の状況

11日、16日及び26日に実施した観測では、山頂火口からの二酸化硫黄放出量は1日あたり1,400～3,700トンで、依然として多量の火山ガスの放出が続いていました(図2 - 、表2)。

地震および微動の発生状況

火山性地震のやや多い状態が続いています。5日00時26分および01時26分には空振を伴う振幅のやや大きな低周波地震¹⁾(波形例は図5を参照)が発生しました。00時26分に発生した低周波地震では三宅村神着で震度1を観測しました。これらの地震発生時の噴煙の状況は、雲のため確認できませんでしたが、5日早朝に三宅島測候所が行った現地調査では降灰は確認されず、地殻変動など他の観測データにも特段の変化はみられませんでした(図2 - ~ 、表2)。

10月に発生した火山性地震の震源は、ほとんどが山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした(図3)。火山性微動は観測されませんでした。

1) 空振を伴う火山性地震が発生した場合には、山頂火口から火山灰を噴出することがあります。

地殻変動の状況

GPS連続観測によると、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続しています(図2 -)。

全磁力観測による熱の状況

全磁力連続観測¹⁾では、火山体内部の熱の状態には特に大きな変化はみられませんでした(図4)。

1) 山頂火口の北側(三宅島A点)で全磁力値が増加(図4中で上向き)、南側(三宅島A点以外の観測点)で減少(図4中で下向き)の変化がみられた場合には、火山体内部で温度上昇があったと考えられます。

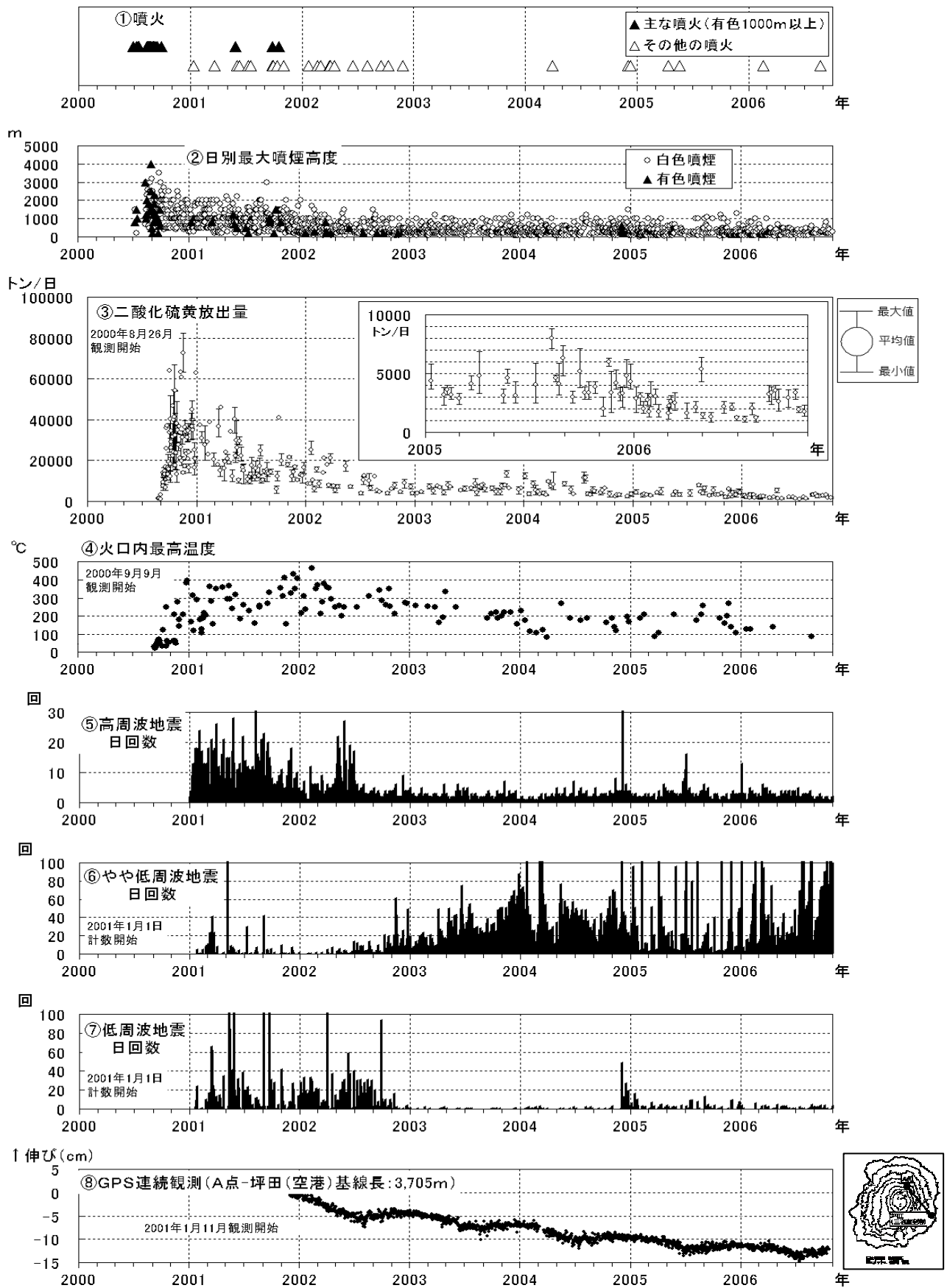


図2 三宅島 最近の火山活動の推移(2000年1月~2006年10月)

及び は、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁及び警視庁の協力を得て作成しています。
 は、火口底内の噴煙の状況により、実際よりも低い温度が観測される場合があります。
 、及び は、地震の種類別(図5参照)に計数を開始した2001年1月1日からのデータを掲載しています。

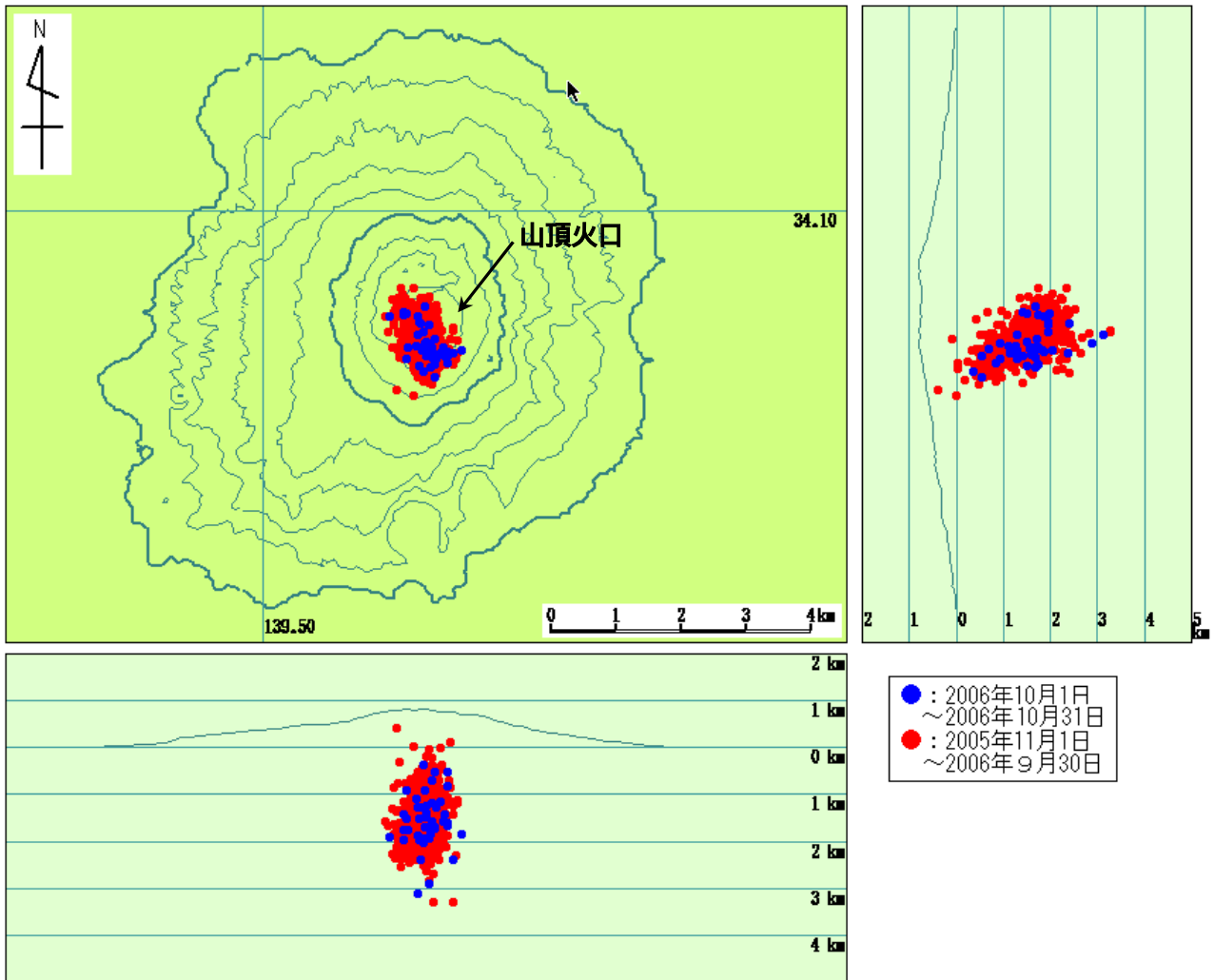


図3 三宅島 火山性地震の震源分布図(2005年11月1日~2006年10月31日)

震源計算には気象庁及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータを使用しています。

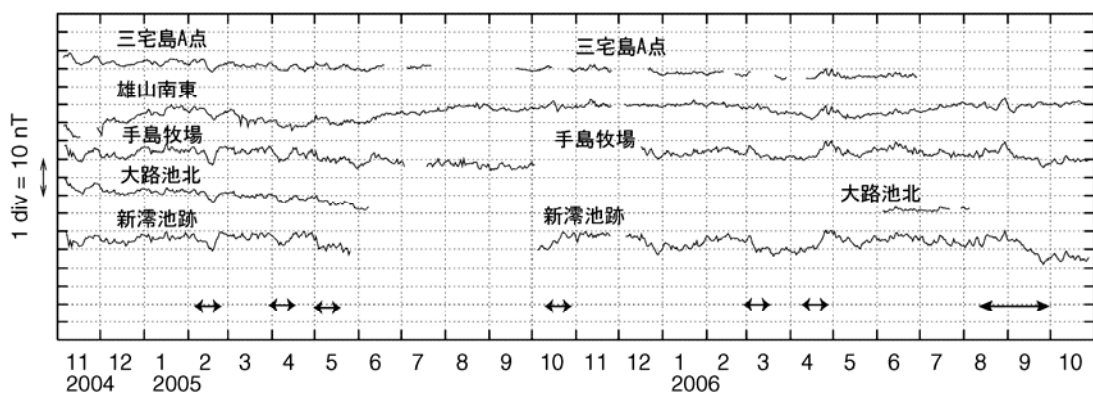


図4 三宅島 全磁力連続観測¹⁾による全磁力値の変化(2004年11月1日~2006年10月31日)

←→で示した期間の全磁力値は三宅島周辺の海流の影響を受けていると推測されます。

nT(ナノテスラ)は磁場の強さを表す単位です。

表2 三宅島 2006年10月の火山活動状況

2006年 10月	噴火 回数	火山性地震回数			微動 回数	噴煙の状況		備 考
		高周波地 震	やや低周 波地震	低周波地震 (空振あり)		日最高 (m)	噴煙量	
1日	0	1	34	0	0	×	×	
2日	0	1	54	0	0	×	×	
3日	0	1	75	0	0	400	2	
4日	0	0	61	0	0	×	×	
5日	0	1	90	4	0	×	×	
6日	0	1	59	0	0	×	×	
7日	0	2	79	0	0	600	3	
8日	0	0	40	0	0	200	1	
9日	0	0	50	0	0	200	1	
10日	0	0	19	0	0	300	1	
11日	0	1	29	0	0	800	3	SO2放出量 2,800~3,700トン/日
12日	0	1	62	1	0	×	×	
13日	0	0	93	0	0	×	×	
14日	0	2	105	1	0	×	×	
15日	0	1	65	0	0	×	×	
16日	0	0	76	0	0	200	1	SO2放出量 1,700~2,200トン/日
17日	0	0	51	0	0	500	3	
18日	0	0	44	0	0	200	1	
19日	0	0	33	0	0	×	×	
20日	0	0	48	0	0	400	2	
21日	0	0	58	0	0	×	×	
22日	0	0	54	0	0	×	×	
23日	0	1	52	0	0	×	×	
24日	0	0	99	0	0	×	×	
25日	0	1	117	0	0	200	1	
26日	0	0	131	0	0	×	×	SO2放出量 1,400~2,300トン/日
27日	0	1	62	0	0	200	1	
28日	0	0	47	0	0	×	×	
29日	0	2	70	0	0	×	×	
30日	0	0	54	1	0	×	×	
31日	0	2	99	3	0	300	1	
合計	0	19	2010	10(2)	0	800	3	噴煙の日最高および噴煙量は最大値

2) 火山性地震の計数基準はA点振幅で8 μ /s以上、S - P時間3秒以内です。低周波地震回数欄にある括弧内の数値は、空振を伴った低周波地震の回数を示しています。火山性地震の種類は以下のとおりです。

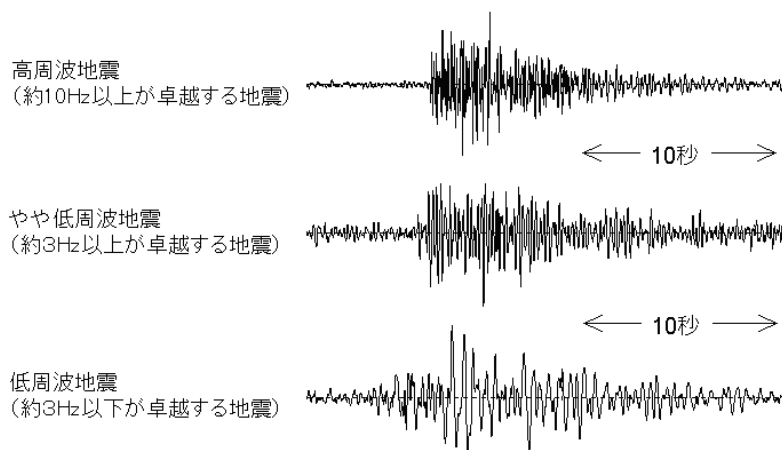


図5 三宅島 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

3) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測(09時・12時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

- 1 : 極めて少量 2 : 少量 3 : 中量 4 : やや多量 5 : 多量 6 : 極めて多量
- 7 : 噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏までに達したと思われるもの
- : 噴煙なし × : 不明

観測点情報

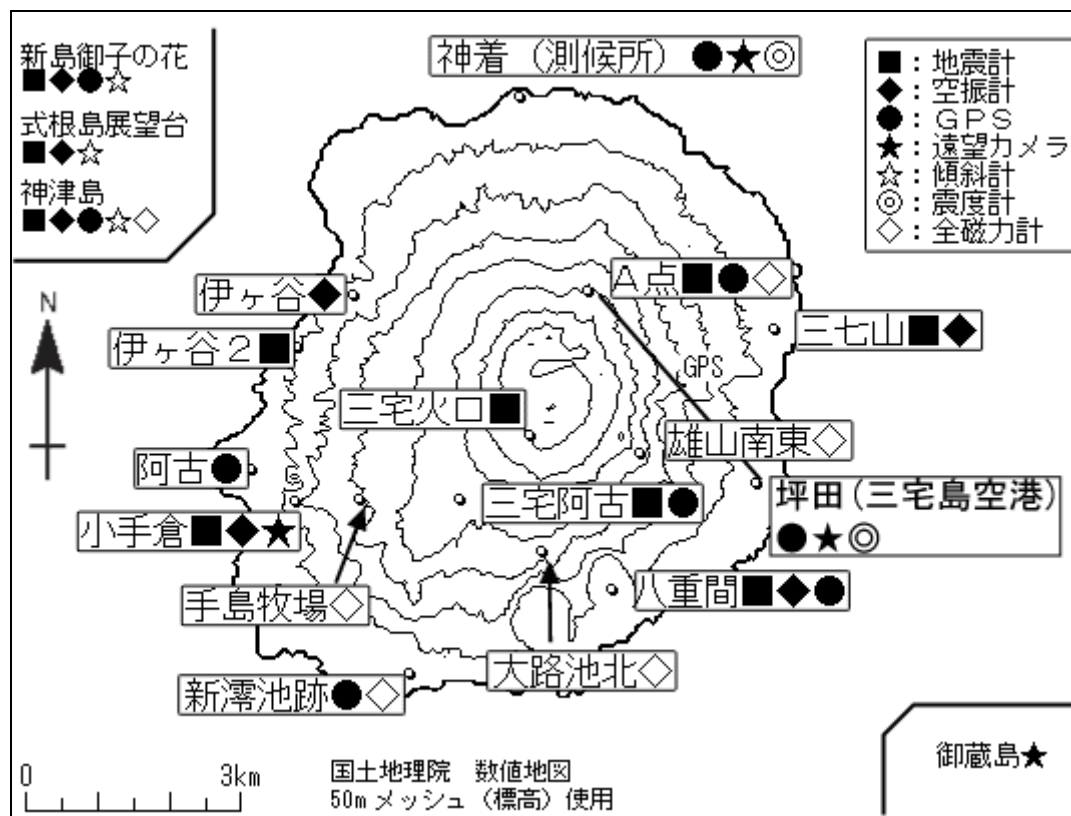


図6 三宅島 気象庁の観測点配置図(小さな白丸は観測点位置を示しています)
 (A点 - 坪田の測線は図3 - のGPS基線を示しています)